

開講学科	総合デザイン工学科	実務家科目				前橋工科大学 シラバス
		—				
科目名	環境デザイン I/コミュニティデザイン	標準対象年次	選択/必修	科目コード		
		4年次	選択	18200401		
担当教員	杉浦 榮	単位数	学期	曜日	時限	
		2単位	前期	火曜日	5時限	
授業の教育目的・目標	<p>・環境デザインに包含される多様な要素と機能を理解し、デザインへと展開する考察力と構想力を養う。</p> <p>・社会の様相を表象する環境や都市へのデザインに対する理解を通じ、社会的なデザインへの洞察力と思考力を養う。</p> <p>・環境デザインの基礎となっている理論の概念と履歴を学び、現代的なデザインに至る思想的・実践的系譜を理解する。</p>					
学科の学修・教育目標との関係	アーバンスケープデザイン/環境デザイン II、都市計画、都市デザイン、建築計画、建築設計、建築史、各デザイン科目などの関連科目で学修する内容を踏まえ、社会活動の総体として現れる環境や都市のデザインについて、広域的な視野と横断的な思考を養う。					
キーワード	環境と都市・地域 環境と社会・パブリック サステナブルデザイン ランドスケープアーバニズム ニューアーバニズム、コンパクトシティ、都市のイメージ、パターンランゲージ 等					
授業の概要	環境デザインに関する近代以降の理論と変遷を学び、現代の都市や地域のあり様に対する示唆を得る。都市や地域の成り立ち及び変遷期における先達の議論を、その時代の社会的な背景や地域自然との関連等に着目し学ぶことにより、環境デザインに表象包含される多様な要素や機能への理解を図る。近代から現代へ至る理論と現在状況を俯瞰することにより、環境と都市・地域の関係性に対する広範な視野と思考力を養い、現代的な構想や提言へとつながる議論を行う。					
授業の計画	<p>第1回： 環境をデザインするとは？（授業のガイダンス）</p> <p>第2回： 環境と都市・地域の関係性のスタディ I（地図情報の基本と活用）</p> <p>第3回： 環境と都市・地域の関係性のスタディ II（地図情報の応用と解析）</p> <p>第4回： 地図情報と実地情報の整合（現地調査：フィールドワーク）</p> <p>第5回： 環境との対峙から近代都市の成立へ：都市化と田園都市論</p> <p>第6回： 都市のインフラとしての「環境」：ランドスケープアーキテクチャの台頭</p> <p>第7回： 都市から郊外へ：近隣住区論とニュータウン開発</p> <p>第8回： 近代都市から現代都市へ：都市のイメージから都市解析へ</p> <p>第9回： 自然解析と都市開発：包括的な地理情報解析への展開</p> <p>第10回： 住民主体のまちづくりの萌芽</p> <p>第11回： パターンランゲージからまちづくり指針へ</p> <p>第12回： ニューアーバニズムとコンパクトシティ</p> <p>第13回： ランドスケープアーバニズムから SDGs へ</p> <p>第14回： 近代以降の理論を踏まえた現代都市への提案</p> <p>第15回： 最終発表と講評、課題提出</p>					
受講条件・関連科目	<p>受講条件：下記の関連科目を受講済または受講予定していることが望ましい。（特に下線科目）</p> <p>関連科目：<u>アーバンスケープデザイン/環境デザイン II</u>、<u>デザイン演習 III</u>、都市デザイン、都市計画、建築計画、建築設計、インテリアデザイン等</p>					
授業方法	講義内容をガイダンスとし、各理論を対象地にあてはめた課題を行い、理解を深める。学生の各課題への取組みと発表及び議論を主としたアクティブラーニング方式で行う。					
テキスト・参考書	<p>参考書：「デザインウィズネイチャー」イアン・マクハーグ、集文社</p> <p>「都市のイメージ」ケビンリンチ、岩波書店      その他は講義時に指定</p>					
成績評価	・試験（40%） ・レポート（60%） ・その他 注意事項（最終発表を試験、各回の課題発表をレポートとみなす）					
履修上の注意	・受講者には、環境デザインへの興味、積極的な履修態度、活発な議論への参加、自主的な課題への取組みを期待する。課題発表は、場合によりグループワークとする。					